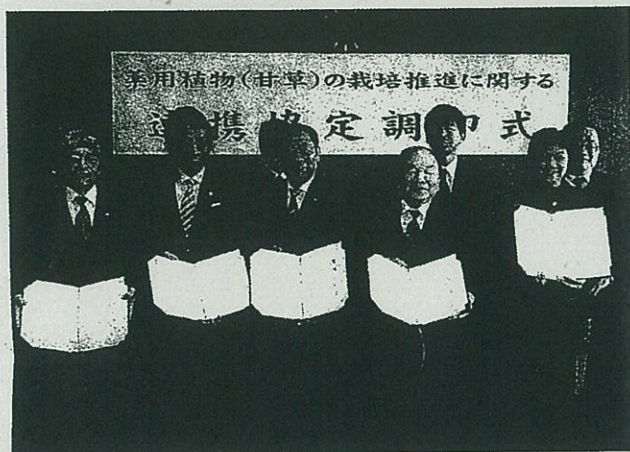


カンゾウで農業活性化

胎内市 新日本製薬と連携実用栽培へ



調印を終え「調印書」を提示する吉田市長(中央)など各関係者

新潟県胎内市(吉田和夫市長)は、地域農業の活性化を図るため、市内全域の休耕農地を活用、薬用植物カンゾウ(甘草)の試験栽培に4月から

ら取り組み始めている。これには、新日本製薬(後藤孝洋社長)、中条町農協(水澤勝正代表理事組合長)、大印合同青果(小野久衛社長)、NPO法人

カンゾウ研究進展
新日本製薬は主に、化粧品や健康食品などの製

造・販売中だが、これに加えて漢方薬製造への参入や他社への原料供給を
目指し、カンゾウの研究を進め、新業開発に取り
組んでいる。

栽培技術既に確立
同社は山口県岩国市の「岩国本郷研究所」で既に高品質の苗づくりや露地栽培技術を確立している。その上で、カンゾウの安定生産を目指して行政を窓口とした栽培地の確保を図っている。国や県、市町村と連携してのカンゾウ安定生産作戦を各地で精力的に行っている。

胎内市との連携協定締結のほか、熊本県合志市などとも、実用栽培に向けての連携協定を結ぶこととしているという。

胎内市は、まっすぐに着手がて実用栽培に着手する計画を立てている。現在、カンゾウはほぼ100%、海外から輸入されている。

カンゾウは、漢方薬の主原料として知られる薬用植物。その栽培技術については、薬用植物の研究を行っている新日本製薬からの提供と指導を受ける。本格的な商業栽培が軌道の乗れば「国内初となる」と、期待が高まっている。

約100%輸入

お問い合わせ先
胎内市農林水産課
02554(43)
6111